

令和 8 年度第 1 回大船渡市防災観光交流センターアドバイザーボード 議事要旨

開催日時	令和 8 年 7 月 31 日(金) 午後 1 時 00 分～午後 3 時 30 分
開催場所	大船渡市防災観光交流センター 多目的室 1・2
出席者	アドバイザーボード委員 3 名 臂 徹委員、北原 啓司委員、柴山 明寛委員 事務局 5 名 都市整備部土地利用課 八巻課長、佐藤課長補佐、海山主査、佐藤主任、松岡主任 総務部危機防災対策課 1 名 伊藤課長 大船渡市観光物産協会 3 名 近江事務局長、佐藤事務局次長、吉田主事 NPO 法人おはなしころりん 2 名 吉田スタッフ、猪股スタッフ 記者 1 名
次 第	1 開会 2 あいさつ 3 委嘱状交付 4 議事 (1)委員長の互選及び副委員長の指名 (2)助言を求める事項について ①指定管理者の戦略ロードマップについて ②避難マニュアルの見直しについて (3)その他 5 その他 6 閉会

1 開会

2 あいさつ(事務局：八巻課長)

委員の皆さまの出席と、日頃からの市政への指導・助言に対して感謝を申し上げる。

本日の主な議題は、「令和 8 年度から 5 年間の戦略ロードマップ」と「避難誘導マニュアルの改訂」の 2 点である。各議題について、委員それぞれの立場から忌憚のない意見・助言をいただきたい。

3 委嘱状交付

委員の任期は令和 8 年 4 月 1 日から令和 10 年 3 月 31 日までとし、委嘱状は席上配布をもって交付に代えた。

4 議事

(1) 委員長の互選及び副委員長の指名

委員長に臂徹委員を選出し、副委員長に北原啓司委員を指名した。

(2) 助言を求める事項について

① 指定管理者の戦略ロードマップについて

大船渡市観光物産協会から、資料 1 ①～⑦について説明した。

質問・意見	柴山委員 ：KPI の数値だけでなく、避難訓練や伝承活動の内容を段階的に高度化し、「どの程度売り込みを行ったか」等も指標化すべき。さらに、令和 12 年度までに「この施設をどうしたいか」という最終目標と KPI の関係を明確にした方がよい。
回答	観光物産協会 ：実績値だけでなく具体的な内容も示し、最終評価・最終目標について、より具体的で深い内容を追記する。中長期将来図をベースに、具体的な目標を設定しながら進める。

質問・意見	臂委員長 ：KPI に加え、活動の中身を評価する KAI の考え方もある。伝承活動などは内容がどう発展したかを経年的に記録することが重要。外部評価は誰に依頼するのがよいか。
回答	柴山委員 ：市役所・消防職員、地域防災リーダー、子育てなど各分野の関係者に見てもらう方法が考えられる。

質問・意見	北原副委員長 ：「回数」「%」だけでなく、5 年前より何が良くなったか、「目的がなくても立ち寄れる」「ここに来れば安心できる」といった施設価値を評価できる軸が必要。 臂委員長 ：観光物産協会が指定管理者として今後どのような施設にしたいか、方向性・存在意義を今年度中に整理し共有していただく形でどうか。
回答	観光物産協会 ：了解した。

質問・意見	危機防災対策課 ：ロードマップにある「コーディネーター」は防災担当か観光担当か。また、どの組織の職員を指すのか。
回答	観光物産協会 ：1 階配置職員を指し、各ガイド・施設との連携、道路案内など様々な対応ができる職員という意味。防災学習ネットワーク各施設との連携役も担う。

質問・意見	柴山委員 ：コーディネーターが来館者に適切な案内・説明ができるか、必要な知識と説明力を確認する機会や内部評価として試験を行ってはどうか。
回答	観光物産協会 ：ぜひお願いしたい。

質問・意見	臂委員長 ：令和7年度は情報発信 256 回、HP 閲覧 82,503 件と多い。力を入れた理由と、今年度の目標を低くした理由は。
回答	観光物産協会 ：従来は貸館情報中心で発信が十分でなかったため、令和7年度は観光・周辺情報も含め発信を強化。公共施設予約システム導入もあり閲覧が増えたが、山火事等の外的要因による一時的増加もあったため、今年度は安定的な閲覧を目指して目標を設定した。

質問・意見	事務局 ：おおふなぼーと観光物産協会、どちらの情報発信を評価するのか。回数だけでなく、利用者に有益だったかも評価すべき。
回答	観光物産協会 ：今年度から協会単独 HP はなく、市 HP 内「おおふなとりっふ」と、おおふなぼーとの HP 等で情報発信している。ロードマップの発信回数は、主に周辺施設・地域情報や館内イベントのお知らせを集計。今後、掲載媒体と内容の区別を整理する。

質問・意見	柴山委員 ：市民向けと市外・観光客向けを分けるべき。AI も Web 情報を参照するため、市内観光情報を充実させ、おおふなぼーとへ立ち寄る流れを作るべき。 臂委員長 ：主体と対象を明確にした情報発信、また「発信 180 回」という指標自体も再検討が必要。情報の質を実績として具体的に示すべき。
回答	観光物産協会 ：これまでも職員が実際に歩いて、食べ歩きなどの情報を含めた観光向けコンテンツを作成してきた。まずは実現可能なコースの作成から始めたいと考えている。

質問・意見	事務局 ：おはなしころりんの市民交流事業は高く評価しているが、現ロードマップでは「回数」中心で、事業内容や成果をどう評価すべきか。
回答	観光物産協会 ：市民交流事業全体の記載と質の表現を、市と協議しながら見直す。

質問・意見	柴山委員：現状把握のためアンケート全体を見直し、利用者の居住地域、満足度、利用圏域など「質」を把握すべき。回答数 170 人程度では少なく、300 人程度は集めたい。ノベルティ等で回答を促す方法も考えられる。 臂委員長：一時点のデータを分析し、施設の充実度を正確に把握できる方法を検討すべき。 北原副委員長：現状の満足度は平均 4 を超えており、良い点は自信を持って継続すべき。また、アンケートを館内だけでなく市役所等の公共施設にも置き、利用していない人・行けない人の意見も集めてはどうか。
回答	観光物産協会 ：実施時期や方法、聞き取りを含め検討する。

質問・意見	臂委員長 ：公共施設予約システムの「使いづらさ」は年代と関係するの。若年層・高齢者で評価を分けて把握した方が対策を検討しやすい。
回答	観光物産協会 ：回答者は 70 代が多く、オンライン予約へのハードルがあると考え。一方、HP 閲覧は増えており、HP 経由予約も増えているとみている。有人対応も継続している。

②避難誘導マニュアルの見直しについて

大船渡市観光物産協会から、資料 2 について説明した。

質問・意見	臂委員長 ：勤務シフト上、常に役割分担どおりの避難誘導は可能か。災害本部の本部長の指示に従うことになっているが、本部長が不在時はどうするか。
回答	観光物産協会 ：少人数・1 人対応も想定し、館内放送等を活用する。本部長不在時は情報共有し、現場にいる職員の判断で実施する。

質問・意見	危機防災対策課：震度 5 以上だけでなく、「弱くても長い揺れ」や遠地津波にも配慮すべき。強い揺れ＝必ず津波ではないため、発信情報を整理することが重要。 柴山委員：日本海溝地震津波の懸念も高い。警報を待たず、逃げるべき時は現場判断で速やかに避難することを徹底する。
回答	観光物産協会 ：了解した。

質問・意見	北原副委員長：「状況等に応じて誘導者の判断を優先する」という表現は根拠が不明確で、誤解や責任問題につながる。 柴山委員：警報が出ない場合や長い揺れ等をパターン別に書き出すべき。 臂委員長：マニュアルは最低限の基準であり、基準にとらわれず命を守る行動を取れることを明記し、解釈の幅を小さくする。フロー図やタイムラインの作成も有効。
回答	観光物産協会 ：了解した。

質問・意見	柴山委員 ：空調の駆動源は何か。垂直避難は津波以外に火災等の二次リスクもあり、「ここに逃げれば絶対安全」と考えないことが重要。
回答	事務局 ：通常時は電気、災害時は電気と自家発電機である。

質問・意見	臂委員長 ：屋上の最大収容人数は。
回答	観光物産協会：数字上 50 名としている。 事務局：設計上は建物全体で約 500 人の避難を想定し、50 人は建物内で 1 日過ごす前提の備蓄・就寝想定。 危機防災対策課：緊急時にはより多人数を収容可能と考えられる。

質問・意見	柴山委員 ：避難時に機械警備をセットするのか。備蓄倉庫の鍵はどうなっているか。警備会社と協議し、災害時の入館・残留者確認に警報を活用できるか確認した方がよい。緊急連絡先等も明示するとよい。
回答	観光物産協会 ：施設は施錠せず避難者が入れるため、通常の警備セットはしていない。備蓄倉庫は通常施錠だが、ドアノブカバーを壊せば開けられる。

(3) その他

クマの出没と対応について

質問・意見	観光物産協会 ：クマの出没に備え、公共施設としてクマスプレー、ブザー、自動ドア対策など何をすべきか。
回答	柴山委員 ：まず通報手順を明確化すること。侵入防止に加え、施設内の避難場所を定める方法もある。人が少ない時間帯は自動ドアを手動化する、入口を限定する等の危機管理も考えられる。

5 その他
特になし

6 閉会